

犯罪の無い町づくり

鳥取市立鹿野学園 8年 田村 綾梨



最近、低年齢の万引きが増えていると耳にします。

何を目的に万引きをしているのだろうか？悪いことをしている自覚があるのだろうか？ニュースを聞きながらふとそんな疑問を抱きました。

万引きをすることで自分に注目して欲しいのではないか。補導されることによって、親や先生に「私を見て！」というサインを送っているのではないか。私はそう感じ、そして不安に思いました。

私の叔母は、警察官として働いています。低年齢の万引き、子供が大人になって家を出た後の主婦の万引きが多いと聞きました。補導後は、たいていの人が「寂しかったから。万引きするつもりはなかった。」と答えると教えてくれました。

私は万引きが出来てしまう環境、そして万引きをしてもいいと思ってしまう環境をつくらないことが大切だと思います。親だけでなく、地域の方の見守り、学校や先生、友達。こうしたすべての人が私達を支えてくれて、よりよい生活を送れるように守ってくれているのだと、改めて感じました。

私が6年生だった時、当時9年生だった卒業生の先輩が答辞で言った、印象に残っている言葉があります。先輩は、

「地域の方が僕たちを見守ってくれたおかげで安心して学校生活を送ることが出来ました。これからは僕たちが皆さんを守るために将来この町に戻ってきます。」

と言いました。この言葉を聞いたとき、私はとても温かい気持ちになりました。それと同時に、安心して学校生活を送ることが出来るというところに共感しました。

鹿野の城下町を歩いていると地域の方が、「おはよう」「お帰り」「頑張っているね」などと声をかけて下さいます。朝、学校に行く前に温かい声をかけてもらえると、今日一日頑張ろうと思えます。しかし、最近地域の方が声をかけて下さるのがあたり前に思えてしまうときがあります。声をかけるというのは勇気が必要であり決してあたり前のことではありません。でも、声をかける人が多い環境をつくれれば、「万引きをして、誰かに注目してもらおう」と思わなくなるのではないかと思います。地域の方や親、先生、友達がいつも見守ってくれている。その安心感で人はみんな自然に笑顔になれるし、他の人に優しくすることができるようになると思います。

犯罪。この言葉を聞くと悪い人は犯罪者だけに聞こえます。でも本当にそう

なのでしょうか。私達も犯罪に加担してしまっているのではないのでしょうか。

犯罪を許してしまう環境があるということの方がもっと怖いと私は思います。知らないうちに人と人の間に冷たい空気が流れる。ストレスで相手になんとなく当たってしまう。新聞やニュースで流れる事件の背景には、このような内容が多いと私は感じています。

今回、犯罪について考えてみたことで気づいたことがあります。

それは犯罪をおかさせない環境をつくるためには、一人一人、自分が出来ることに取り組み、地域とつながっていると実感できることが大切だということです。例えば、あいさつをすること。地域の方に笑顔で接すること。ボランティアに参加すること。この三つは私にも出来ることです。

私は、少しでも地域に貢献し、みんなが温かい気持ちになれる町づくりをしたいです。犯罪が世界から消える。それは難しいことかもしれませんが、おさえることはできます。

明日から私は、自分からもっとあいさつをしていきたいです。